



発寒ひかり
保育園だより

2024年
5月号

巻頭言

今年度も新たなひかりっこたちが入園し、ファミリーやクラスの間が増え、新年度の歩みが始まりました。

4月から小学校に入学したEちゃんは、在園中、年下の子や友だちが困っているといつも相手に寄り添い、そっと手を差し伸べ、優しく声をかけていました。卒園した後も、「Eちゃんのことだいききな。やさしいんだよ。」と言う子もいるほど、今でもファミリーみんなの憧れの存在です。

4月からきりん組に進級したIちゃん(5歳児)は、Eちゃんとともに仲良しでした。Eちゃんが卒園した寂しさもありましたが、友だちや年下の子と一緒に遊びながら新しい環境に慣れようと頑張って過ごしていました。

そんな中、Eちゃんが小学校の入学式後に顔を見せに来てくれたのです。嬉しさや寂しさ、安心した気持ちもあり、互いに会った瞬間に泣き、抱き合ってまた会おうねと約束をしていました。二人は互いに慕い慕われ、心を安定させながら共に育ち合っていた関係だったのだと感じました。それからのIちゃんは、年下の子のお世話に積極的で、まるでEちゃんのようにです。Eちゃんを一番側で見てきたIちゃんに異年齢の関わりが自然と受け継がれていたのだと感じました。毎日、Eちゃんのような「いちばんやさしいひとになりたい」とはりきっています。

当園では、異年齢の関わりが自然に生まれるよう、配慮や工夫をしています。これからも子どもたち一人ひとりが色々な人と関わり、様々な経験を通して豊かな心が育まれるよう、愛情を注ぎながら日々の関わりを大切にしていきたいと思っています。

ことり組・とまとファミリー担任 小林 遥